

平成 26 年度第 4 回区民版子ども子育て会議
「子どもの生きる力の育み」外遊びについて語ろう！

平成 26 年 8 月 25 日（月）18 時 30 分～21 時

成城ホール 4 階

参加者 41 名

- 「外遊び」区の状況について（世田谷区）
- 会場全体での意見交換とテーマ決め
 - テーマ①プレーリーダーの育成
 - テーマ②公園でポツンをつなげる人
 - テーマ③公園で何ができるか
 - テーマ④外遊びって？
 - テーマ⑤子どもが遊びたい～をどう保障するか
- テーマに分かれてグループワーク

【グループワークまとめ】

■ 1. プレーリーダーの育成

問題点

- ◎専門性 プレーワークを資格として定着させ、広い視野でどう育てていくのか。
雇用の継続性や体制をどう作っていくのか
- ◎当事者性 子育て中の大人にどのように共感してもらえるか。親へのアプローチも必要

プレーワーカーが子どもに接するということは大人がやる事で子どもの主体性が基本にな
い。子どもの主体性尊重し保育できる人が必要

- ・人が拠点になる＝
→プレーワークを学ぶ（コーディネータ必要性）
- ・当事者の活躍
→育児中の母をリーダーへ 来ている人が主体になると「自分が!!!」の意識が出てくる

"プレーリーダーって何？

- プレーパークせたがやの前から 9 年前から試行錯誤しながらようやく形になってきた。
- 遊ぶ子どもたちに接する大人の仕事をする人＝プレーワーカー
- 保育士さんでもプレーワークという仕事は目からうろこ＝子どもを主体に考えている
- プレーワークという資格をきちんと使おう！
- 外遊びという扱いを広く取り入れるためにプレーリーダーという考えを広くいっぱい
増やしたい。

- プレーリーダーも同じ立場。親＝子育て真っ最中の人もいると良いね
- プレーリーダーがいることで仲間だけの集団にならないようにスキ間を作る＝外から入りやすいようにする
- 月1回だと2年かかる。近くの公園に行ったらいろんな世代の人たちが地域の中で活動するには信用性、信頼感必要
- まちづくりセンターの人や社福の人、学校のPTAなどが公園をまわる（プレーカーのことを学んだあと）
- 外遊びには初めて来た人に対して→子ども支援、親支援が必要
- "どんなに素晴らしい公園でも人がいないと来ない＝そこにいる人が人を呼ぶ
- プレーリヤカー、プレーカー活動が地域の拠点になって広く開かれていく"
- プレーワーク。子どもの遊びに特化して学ぶべき＝保育の質を問う＝必要と思う人
- 担い手不足！世田谷区としてリーダーを育成していくには・・・見えないものに対してお金をつけることが必要となる

■ 2. 公園でボツンをつなげる人

【親子の現状・実態】

- 大人は遊びを忘れる
- 今のお母さんたち、他の人に迷惑かけないように！
- “子どもを育てる”ことに対しての親への教育
- 先を先を見過ぎてる！→遊びに結果を求める
- 子どもは“自分”のもの、ステータス
- たまにあう人（たち）に声をかけるの、勇気がいる
- 母⇄子だけの砂場、緊張感…来たくなくなるだろうな
- 限られた遊び“室内”での遊びに限界

【結 論】

核になる人＝人をつなげる人→お母さんも人とのつながりを求めてくる

子どもとの遊び＝大人、たのしくなる！！

1つのきっかけがあれば・・・

つなげる人は→必要！だけど・・・

リーダーがいないとつなげない関係は良くないよね→“来ている人”が“つなげる人に！”

【効 果】

- 発見！「砂って手でさわっていいんですね」（小声）ナベとおたまで遊べる！”
- 砂場の真ん中でプレーリーダーがまず遊ぶと子や母が繋がり始めた！
- 3歳、ゾウさんジョウロの使い方がわからない
- 「ドロきたない・・・」ってあまり聞かない。本当は言いたくないんじゃないか
→誰かが「おもしろいね」の一言で母も楽になる

- "ルール“親があそんでみせる！！” →いやいやから遊びこむに！"
- "習い事感覚でプレーカーに来る→仲間づくりのための習い事"

■ 3. 公園で何ができるか

【ギャップについて】

- 子どものやりたいことと親のさせたいことが必ずしも一緒ではない。その理解が必要
- 保育園、学童の子、自由な外遊びからとても遠いのでは？
- 管理と自由のギャップ。管理の場(BOP とかプレーパーク) 使い分ける子→疲れちゃう
- 親も遊ばせてあげたい人もいるけど、習い事の規制に縛られてしまう。子どもの遊ぶ時間は結果的になくなる
- 衛生が大事 (清潔)
- 自由、夢中な遊び、あまりにも評価されていない→どうやって伝えたら良いの？
- 専門家、知識としての外遊びの重要性と実感のない親→比重、バランスが悪い
子どもの成長によって、また違いがある
外遊びデビュー＝ドロ遊び、水遊びは違和感

【例えば】"プレーパークに行くと子どもが帰ってこない、やだという親。

子どもは時間を気にしている→時間を忘れて遊ぶことはすばらしいコト→啓蒙する
実は、時間を気にせず過ごしている子は豊かで「悪い子」といわれるのは管理ではないか
「夢中になっている顔を見せたい！そこをつなげたい！！」

【何ができるか】理想と現実がある。大人の中にそのギャップを埋めることは何ができる？

- ママたちが習い事の曜日を合わせる"
- 学校から外へつれだすことを目的とした企画もできる→中間組織

【対策】ギャップがありすぎるが、隙間がどちらにも必要

- 子育てが極端な人を中和する人 (先輩お母さんとか) が必要
- 多様な親の志向合わせた対応ができないと (プレーリーダー)

■ 4. 外遊びって？

なぜ外遊びが大事か？⇒それは自然が子どもに語りかけるから

現実クレームで管理されすぎているが、顔が見えるように継続的につながっていくことが大事である。

- 子どもがその時興味あることをやらせきってあげる
- したいことが見つからなくても見つけるのも遊び
- 刻々と変化していく中で“自然” から遊びかけてくれる

- 危ないことを自分で学ぶ
- 安全クレーム、騒音クレームの裏の気持ちをちゃんと受けとめる
- 外は中と違って遊びにきてくれる
- 自主保育、雨の日も外。かっぱ着て滑り台滑る
- 脳にいいからとかそういうことでやるのではない
- 子どもと一緒に学ぶ、子どものやりたいことを見ている
- 毎日外遊びさせたい (2歳)
- クレームばかりが行政に届く
- 子どもの興味のある事をやらせてあげる
- 顔が見えると利害対立が解消される
- 学童の遊びはつまらん←安全
- 遊びを提案しすぎ？遊んでる姿を見せるのがいい
- おもちゃや遊び方を提供するのっていいのか？
- ケンカも子ども同士で解決させたい

■ 5. 子どもが遊びたい～をどう保障するか

- ① 外遊びで規制されて育った親にはわからないので、きっかけや学習会が必要
大人に外遊びの大切さを知ってもらう。児童館で学術的なことを語ってもらう場を作る
学術的に伝えていく。学習会を児童館で！！"
学校の先生、保母も間違いはあるのでは～
- ② 親も大人も遊べる場を作る
親が体験できる機会があったらいい→川に入る
- ③ 乳幼児期から外遊びの大切さを意識させる
出産～子育てに育時に、乳幼児期の育ちの大切さを教えていく時代ではないか？
メッセージをもったアプローチ、意識化して伝えていくことが必要"外遊びを伝えるきちんと意識的にそれが必要な時代
- ④ 色んな遊びができる場所がある
親がいない遊びの場があってもいい"
親の目のないところで、できるのが大切
親の目のない所で遊んでいる姿を後で見ってもらう
プレーパーク的な外遊びだけでなく、壁うちできる場も欲しい→グラウンド的とか
親も遊べる外遊びの場づくり
- ⑤ 苦情を引き受けるプレーワーカーがいる
プレーワーカーの配置→子どもをひき出せる人がいる、苦情とむきあえるから

⑥ 共同の子育てが大事

共同の子育て。これができる場が大事！！

親はよき遊び相手ではない。ということを伝えたい→今は人と出会うチャンスがない

親の孤立

地域でのつながりがなくて地域をつながりがない。

⑦ 2足のわらじを履いていることが大事

おでかけひろばでつながっていく→スタッフも2足のわらじでつながっている。

いろいろ伝えて紹介して、「私もいるから」

スタッフが2足のわらじ、だから室内から室外につながる